



## 佐藤 凉介 さん

Sato Ryosuke

岡山市・佐藤医院院長

1983年愛媛大卒後、同大第1内科勤務。90年岡山市内で佐藤医院開業。94年から安田内科、片岡内科と診診連携開始。2012年岡山市医師会在宅担当理事。



### 多職種連携の新しい在宅看取り時代を拓きたい

“診診連携”“グループ診療”という言葉もまだ聞き慣れない1994年、岡山市内で同じ診療圏内の3軒の内科系医院が連携、しかも在宅での看取りを中核とする24時間連携体制をスタートさせた。当時、岡山市医師会の働きかけで他に4つのグループ診療チームが立ち上がったが、今も活動を続けているのは佐藤さんたちの「清輝橋グループ」だけ。

心がけてきたのは「協調し相手を尊重する心」と「診療所の独自性発揮」とのバランス。

もともと家庭医療、在宅での看取り医療に強い関心を寄せていた佐藤さんたちではあったが、一緒にチームを組む安田英己、片岡廉両氏と得意分野が異なることで補完しあえるメリットが大きいことや、「あえて完全ではない」24時間・365日代診体制を組んでいることが、長続きの秘訣になっている。



岡山大の看護学生さんの研修会終了後。前列左から2人目が佐藤さん、3人目が安田さん、4人目が片岡さん

連携する訪問看護師、訪問薬剤師からも重要な役割を果たしており、「復活した高松市の合唱団OBの練習にも安心して通えます(笑)」

グループではこれまで段階的に学生や多職種のさまざまな勉強会を展開してきた。教育に対する情熱が結果的に3つの診療所の結束を強めているという。「グループ診療だからこそ、教育に力を注ぐことができるとも言えますね」

2012年における佐藤医院での実地教育・研修の受け入れ実績は学生・研修医等が56名、延べ研修日数が42日間にも上る。外来診療にとどまらず、在宅緩和ケア、ターミナルケアを文字通り肌で体得してもらっている。大学では得られない貴重な経験に、多くの学生・研修医は強い感銘を受けて戻っていくという。

「これからの多死時代に対応するには、病院偏重の医療から、地域・在宅の医療への回帰が必要と痛感しています。在宅医、訪問看護、訪問薬剤師、在宅医療に理解のある病院専門医ら多職種がしっかり連携し、自然な形で看取りが行われる新しい時代を拓いていきたい。そのために、学生や研修医に少しでも在宅医療のすばらしさを理解してもらえよう、教育に力を注いでいるのです」